

# 出雲康雅の会

狂言

箕被

山本東次郎

能

絵馬

女体

出雲康雅

平成二十八年二月六日〈土〉午後一時開場 午後二時開演

十四世喜多六平太記念能楽堂

写真提供：粟谷能夫

入場券 正面指定席 10,000円 一階自由席 6,000円 二階自由席 3,000円 学生 2,000円

お申し込み・お問い合わせ

出雲康雅 Tel/Fax 03(3987)2044 十四世喜多六平太記念能楽堂 Tel. 03(3491)8813

# 出雲康雅の会

おはなし 大島輝久

狂言

箕被

シテ(天照大神) 山本東次郎

アド(妻) 山本則孝

〔休憩十五分〕

能

ツレ(手力雄命) 大島輝久

ツレ(天鈿女命) 佐々木多門

ツレ(姥) 内田成信

シテ(天照大神) 老翁 出雲康雅

## 絵馬

女体

ワキ(勅使) 森 常好

ワキツレ(従者) 舘田善博

ワキツレ(従者) 森常太郎

大鼓 國川 純 太鼓 観世元伯

小鼓 鶴澤洋太郎 笛 杉 市和

アイ(蓬萊島) 山本泰太郎

アイ(の鬼) 山本則孝

アイ(蓬萊島) 山本凛太郎

後見

香川靖嗣  
中村邦生

地謡

栗谷浩之 大村 定  
狩野了一 栗谷能夫  
長島 茂 友枝昭世  
金子敬一郎 栗谷明生

〔午後四時三十分頃終了予定〕

### 【箕被】

夫は連歌に入れ上げ、方々の連歌の会に顔を出し家に帰ってこない。その夫が「明日の連歌の会で頭(会の当番)に当たった」為、ようやく自分の家に帰ってくる。妻は「日々の暮らしも立てかねる身で、連歌の頭など以外の外」と反対し、どうしてもやめないなら暇をくれと離婚を迫る。夫は仕方なく承諾し、暇の印、離縁された証(抛の品)を求める妻に日ごろ使い慣れた箕(穀物をふるい分ける道具)を手渡す。やがて箕を被いて(頭に載せて)立ち去る妻の後姿に夫は「いまだ見ぬ二十日の宵の三日月(箕被きは)」という発句を思い立ち妻に詠み掛けると、妻は「今宵ぞ出ずる身(箕)こそつられ」と脇句を付ける。夫はその見事さに感嘆し、この後は家で妻と連歌をして楽しむ事になると伝え、夫婦で改めて盃を交わす。

### 【絵馬】

時の帝に仕える臣下(ワキ)が、献上品を携えて伊勢神宮へやってくる時、節分の絵馬を掛ける日で、日照りを占う白絵馬を持った老人(シテ)と、雨を占う黒絵馬を持った姥(ツレ)が現れて、互いに絵馬を掛け争うが、天下万民が喜ぶようにと両方を掛け、実は伊勢の二柱の神だと明かして失せる。(中人)  
蓬萊島の三人の鬼が宝の槌でうち出した宝物を君に捧げて去る。  
やがて天照大神(後シテ)が天鈿女の命と手力雄の命(後ツレ)を従え現れ、それぞれ(神舞)急舞を舞って天の岩戸の神話を再現して見せ、天下泰平を祝福する。

◇平成二十八年二月六日(土) ◇午後一時開場・二時開演 ◇十四世喜多六平太記念能楽堂

#### ご注意・お願い

- 演能中は、携帯電話・ポケットベルの電源をお切り下さいますようお願いいたします。
- 場内での写真撮影及び録音は禁止されております。
- やむをえぬ事情で、出演者が変更になる場合があります。
- お求めくださいましたチケットの払い戻しは、公演中止のほかは致しかねますのでご了承ください。

#### お問い合わせ

出雲康雅  
〒171-0032  
豊島区雑司が谷2-8-37  
Tel.03-3987-2044

喜多六平太記念能楽堂  
〒141-0021  
東京都品川区上大崎4-6-9  
Tel.03-3491-8813

#### 会場案内図

